

ひらけコマ!

しずおかしりつとしょうかん
静岡市立図書館

はるごう
Vol. 140 (2020春号)

とくしゅう はな
特集 花

えほん 「コアラとお花」

E マフィ

メアリ・マーフィー / 作 ひだ みよこ / 訳 やく ポプラ社 しゃ



きれいな花を見つけたコアラは、花をからせてしまいがっかり。花の事を知りたくて歩いて行くと、ロバがよいところに案内してくれました。

着いたところは図書館。そこで本を読み、花の種を買って植え、水をまきました。

知りたいことがわかるって、とってもうれしい! 本を読む楽しさが伝わってくる絵本です。



ことわざクイズ! どんないみ?

「花よりだんご」

☆ ことえはいちばんさいごのページ

「くだものっこの花」

あか 913

たかどの ほうこ / 作 さく つちだ のぶこ / 絵 え

タカトノ



かん フレーベル館

『^{あおた}青田^{てん}くだもの店』には、くだもの^こ子どもの^{がくどうほいく}学童保育『くだものっこ』
があります。朝、お店の^{あさ}たなから^{みせ}学校^{がっこう}
に行った子どもたちは、^いたなにも^こどら
ないで、^{ねこ}猫の^{せんせい}タマ先生と^す過ごします。
^{きょう}今日は、^{なに}何をしているのでしょうか。

えほん「ルピナスさん」

— ^{ちい}小さな^{おばあさん}おばあさんのお話 —

E クニ

バーバラ・クーニー / さく かけがわ やすこ / やく ほるぷ出版 ^{しゅつぱん}



^こ子どものころにおじいさんと3つ
の^{やくそく}約束をしたルピナスさん。
^{おとな}大人になって^{やくそく}約束のとおり^{とお}遠い^{くに}国
に行き、^いおばあさんになったら^{うみべ}海辺
の^{まち}そばの^す町に住みました。
3つめの^{やくそく}約束「^よ世の中をもっと^{うつく}美
しくするために^{なにか}なにかする」をはた
すため、ルピナスさんは^{なん}どんなことを
したのでしょうか。



ほかに ^{ほん}他にも ^{ほん}こんな本があるよ!

「^{はな}やさいの花」

626

ハ

^{はに}埴 ^{しゃほう}沙萌 / ^{しゃしん}写真 ^{しまだ}嶋田 ^{やすこ}泰子 / ^{ぶん}文 ^{しや}ポプラ社

「ようこそ！花のレストラン」

ただ た え こ しゃ しん ぶん
多田 多恵子 / 写真・文

しょうねんしゃしんしんぶんしゃ
少年写真新聞社

471.3

タ



じめん じつ しょうぶつ
地面にじつと動かない植物も、実
たね とき はな とき たび
は種の時と花の時に旅をします。

ほん かん ほん
この本は、花粉の輸送大作戦が繰り
ひろ はな むし かんけい
広げられる花と虫たちの関係を、レス
トランとお客さんにたとえた本です。

あなた ほん
あなたの身近にある、植物のふしぎ
せかい
な世界をみてみましょう。

えほん「つちづくり にわづくり」

ふん こなし なお やく
ケイト・メスナー / 文 小梨 直 / 訳

え ぶん ふういんかんしょてん
クリストファー・サイラス・ニール / 絵 福音館書店

E ニル



わたしの手には、たねがいっぱい。
どんな庭にしようかと考え、おばあ
ちゃんに庭づくりをはじめます。庭に
は小鳥や動物がいて、土の中には、い
っぱい虫がいます。

ページをめくるたびに、季節が移
り、庭の花のまわりの世界が、丁寧に
描かれています。

何度も読み返したくなる1冊です。

「リューンノールの庭」

まつもと ゆうこ さく さたけ みほ え こみねしょてん
松本 祐子 / 作 佐竹 美保 / 絵 小峰書店

あお 913

マツモト

ごまはかせ と こま太くんの どうやってしらべるの？



こま太くん

こまったなー、こまったなー、はかせ。
花のたねをいっぱいもらったんだけど、どう
やってまいらいいのかわからないんだ。

ほほう、たねをもらったのか。
たねまきには、よい季節になったからのう。



でも、たねまきしたことがないよ。
どうするのかなあ。そのあとは何を
するの？

そんな時は、図書館に行き調べてみよう！！



ごまはかせ



まず、目的の本を見つけるためには、花の育て方の本が
どの分類にあてはまるのか考えるのじゃが…。

6の分類の園芸の棚に行きごらん。植物の育て方
について載っている本があるはずじゃよ。

4の自然科学の植物の棚の図鑑には、花のことが詳しく
載っているのう。



あ、あったよ！これでたねまきができるよ。
花が咲いたら、はかせも見に来てね。
はかせの好きな花は何かなあ？

わしは、チューリップが好きじゃよ。



ひょうし
表紙の
こたえ

ただ見ているだけの美しいものよりも、じっさいに
役に立つもののほうがよい、というたとえ。